

地域農業の未来は我が社にお任せあれ！

あきたで生きる～秋田の地域資源を活用し、秋田で暮らし、秋田を活かす取組～



事業者名:合同会社 穂(あき) (北秋田市)
代表者 亀山 春樹(29歳)

経営概況

経営面積 | 水稲:21ha(令和8年)

あきたこまち R、つきあかり、しきゆたか

そば:5ha、にんにく:5a

労働力 | 3名 (本人、兄、令和8年度新規雇用者1名)

販売先 | 卸売業者、産地直売所、JA 等

北秋田市で、水稲をメインに地域の担い手として奮闘している若き農業者がいます。経営規模拡大や雇用環境の整備、施設整備等に取り組み、地域の中心経営体となるため、令和5年1月に自ら代表を務める「合同会社 穂」を立ち上げました。会社名の「穂」には、作物が実るという意味が込められているとのこと。将来どのような大きな実りとなるか期待大です。

▶ きっかけ

北秋田市で生まれ育った春樹さんは、代々農業を営む祖父の農作業を幼少の頃から手伝うなど、農業が身近にありました。平成26年から祖父の手伝いの傍ら本格的にジャンボインゲンの生産に取り組んだ事で、就農への意欲が高まり、平成30年4月に国の「農業次世代人材投資事業」を活用し、水稲約7haに露地野菜(やまのいも等)を組み合わせた複合経営でスタートしました。



営農ビジョンを語る亀山代表

一方、経営については、地域農業者からの期待と信頼が増したことにより、受託面積が年々拡大してきたそうです。個人経営では限界があると考え、将来、地域の環境保全と産業の発展に貢献できるよう令和5年1月に「合同会社 穂」を設立しました。



田植えを待つあきたこまちRの苗

稲作を中心にそばやにんにく等の畑作物との複合経営の実践や自動操舵トラクター、薬剤散布用ドローンなどスマート農業機械の積極的な導入しています。加えて米穀の出荷契約を地元JAの他、首都圏の卸会社と締結するなど持続可能な農業を実践しています。これらの取組は、「県内農業者の模範となり、顕著な実績を上げている。」として秋田県が主催した令和5年度ふるさと秋田農林水産大賞(担い手部門・未来を切り拓く新規就農の部)において、大賞を受賞しました。本受賞は、大きな自信になったとのこと。



●津谷北秋田市長(左)に大賞受賞を報告

▶ これから

北秋田市においても基幹的農業従事者の高齢化、担い手不足が大きな課題となっており、合同会社 穂に対する期待も大きくなっていると感じているようで、将来的には、基盤整備を契機に約50haの水田を集積し、業務用米をメインに首都圏への販売チャネルを広げ、収入を確保していきたいと考えているそうです。

春樹さんからは、①「労働環境の整備による新たな人材の確保」②「国や県の事業を活用した施設整備やスマート技術の導入」③「優れた栽培技術や情報の積極的な導入」④「地域の環境保全と産業の発展に貢献」等を目指して進んでいきたいと話いただきました。地域の救世主としての合同会社 穂の活躍に目が離せません。

▶ 取組

就農の第一歩として、農業に対する知識や経験不足を補うため、北秋田地域の若手農業者を中心とした「北秋田地区農業近代化ゼミナール」に参加し、経営力や栽培技術の向上のための知見を高めたそうです。その甲斐あって、現在では、北秋田地区農業近代化ゼミナールの会長に就任し、若手農業者の牽引役となっています。

●印写真:北秋田市 提供

